「みちのくALERT２０１４」（11月6日～9日）のオスプレイ訓練経過

１１月７日　＊陸自霞目駐屯地へ２機向うも、１機が引き返し、発着艦訓練も見送り

09:05頃：厚木基地をオスプレイ２機（Dragon #03と#07？）が飛び立つ
しかし、内１機（#07と思われる）は「何らかの理由」で途中で引き返し、厚木基地に9:33頃着陸。
＊引き返した理由について、陸自東北方面隊は「掌握しておらず」旨を述べる。

10:00頃：陸自東北方面隊霞目駐屯地（仙台）にオスプレイ１機（#03）が着陸。

＊強風と高波で、発着艦訓練は見送り。

14:00頃：オスプレイ１機（#03）は海上輸送艦「くにさき」への発着艦訓練のため石巻湾上空に向け飛び立つも、強風と高波にのため計画していた発着艦訓練を見送り。霞目駐屯地に２度戻ってきた後、駐機するはずだった駐屯地を離れ、厚木基地に引き返して16:32頃着陸。
＊引き返した理由について、陸自東北方面隊は「掌握しておらず」旨を述べる。

１１月８日　＊前日同様１機引き返すも、駐屯地と大島間の輸送訓練が行われる

08:21頃：厚木基地をオスプレイ２機（Dragon #07、Tiger #06 ？）が飛び立つ。
しかし、内１機（#06と思われる）は「何らかの理由」で途中で引き返し、厚木基地に9:21頃着陸。
＊引き返した理由について、陸自東北方面隊は「掌握しておらず」旨を述べる。

09:20頃：陸自霞目駐屯地にオスプレイ１機（Dragon #07）が着陸。

＊駐屯地と大島間の輸送訓練

09:50頃：陸自霞目駐屯地から大島に向け飛び立つ。
10:08頃：大島（気仙沼市）の海辺に近い、「大島みどりのふれあい広場」に着陸し、毛布や水を降ろす。（芝には、事前に水を散布していた。）
10:23頃：患者役の二人を乗せ、大島を飛び立ち陸自霞目駐屯地に向かう。
10:40頃：陸自霞目駐屯地に着陸。

＊突然、オスプレイ１機が、霞目駐屯地へ飛来

12:39頃：厚木基地をオスプレイ１機（Tiger #06）が飛び立つ。
13:30頃：陸自霞目駐屯地にオスプレイ１機（Tiger #06）が突然飛来し着陸。
＊東北方面隊は、「直前まで飛来情報が入っていなかった」旨を述べる。

＊オスプレイ試乗

14:30頃：江渡聡徳防衛相が、オスプレイで石巻湾上空を30分程度視察。

＊１機は訓練終了し、厚木へ

15:00頃：陸自霞目駐屯地から、オスプレイ１機（Tiger #06）が飛び立つ。
15:59頃：厚木基地にオスプレイ１機（Tiger #06）が着陸。

１１月９日　　オスプレイは訓練には参加せず、マスコミ公開後厚木へ

13:40頃：陸自霞目駐屯地からオスプレイ１機（Dragon #07）が飛び立つ。
14:37頃：厚木基地にオスプレイ１機（Dragon #07）が着陸。

みちのくアラート2014で明らかになったオスプレイの問題点

11月6日～9日に行われた日米豪の共同訓練自体がそもそも問題だが、危険性が危惧されるオスプレイの飛行ルートは開示されす、予定通りに実施された訓練は、霞目駐屯地と大島間の輸送だけに終わり、実際の災害救助には役立たないことが明らかになった。

１．天候に脆弱（＝危険）であり、災害救助用の輸送機に役立たないことが明らかになった

①高波や強風で、海上輸送艦への発着ができなかった。悪天候時には、機動力を発揮できないことが明らかになった。

②予定通りに飛来しなかったのは、「何らかのトラブル」と言われているが、実際には飛来しても「訓練が失敗に終わる」ことが予想されたことから、「天候に脆弱」であることが表面化することを避けたためと思われる。

③芝生への事前水撒き（芝生が焦げた和歌山の教訓か？）など、オスプレイの陸上での離発着には、それなりの手間がかかることが明らかとなった。

④輸送艦への発着艦訓練中止に対し、江渡聡徳防衛相は、「安全性を最優先にした判断だったのだろう。いざという時は、必ず有効な手段になる」と述べたが、「天候」による限界は事実であり、少なくても災害派遣用の輸送機には不適格である。

２．自治体への情報公開を「不要」とする姿勢が明らかになった

①１１月７日に、厚木へ１機戻った（２機飛来の予定）が、引き返した時刻や原因が、米軍から陸自東北方面隊に報告がなかったとされている。
しかし、仙台駐屯地に「日米豪調整所」が設置・運営されており、把握されていた「内容が公表できるものでなかった」可能性が高い。以下も同様と思われる。

②飛来した１機も厚木へ戻ったが、この理由も陸自東北方面隊では「把握されていなかった」とされている。

③１１月７日に続き８日も厚木へ１機戻った（２機飛来の予定）が、米軍から陸自東北方面隊に「報告がなかった」とされている。

④１１月８日の13:30頃に、突然オスプレイ１機が霞目駐屯地に飛来したが、陸自東北方面隊には「直前まで情報が入っていなかった」とされている。

⑤飛行情報など、米軍から陸自東北方面隊に提供がされなかった問題に対し、江渡聡徳防衛相は、「わたしがとやかく言うこどではない」「米軍の運用上の問題」として問題にしなかった。情報開示を不要とする姿勢は訓練に限らず、今後予想されるオスプレイの飛行に対しても情報開示を求めないということではないか？

３．その他

１）自衛隊への導入アピール

江渡防衛相は８日、自衛隊や在日米軍、東北６県の自治体などが宮城県沿岸部を中心に行っている災害対応訓練の会場を訪れ、米海兵隊輸送機「ＭＶ２２オスプレイ」に体験搭乗し、「非常に安定した乗り物で騒音が少ない」と記者団に語り、機体の安全性をアピールした。さらに、「災害対応や急患移送でも有用なアセットだ」と述べ、同機を幅広い分野で積極的に活用していく考えを示した。（**読売新聞**11月09日**より抜粋**）

２）原発震災対応訓練

青森では「原子力災害」対処訓練が行われたが、宮城県沖で Ｍ ９の地震・津波を想定した訓練であり、明らかに原発震災への対処訓練である。詳細は明らかでないが、原子力災害を想定していながら、一方で原発を再稼働させるのは理不尽極まりない。

１１月８日　大島の訓練状況、他

大島「ふれあい広場」に、10時8分頃着陸。

大島から駐屯地へ患者役を搬送

転換モードでは、若干機首が下向きに☞

駐屯地から毛布や水を大島に搬入

10時23分頃、駐屯地へ向かい飛び立つ

ヘリコプターモードで一気に上昇

上昇後、30秒ほどで転換モードへ

転換から15秒ほどで水平モードに

陸自霞目駐屯地（１１月８日　13時42分頃撮影）　　手前が＃０６、奥が＃０７

危険性が指摘されてきた オスプレイ

ＮＰＯ法人ピースデポ　湯浅一郎さん講演資料（１１月４日）より

高望みの目標＝垂直離着陸＋固定翼機
→全体的に揚力が不足。
→操縦技術の複雑化と困難性
大気の不安定や渦に弱い。
・後方乱気流に入ってしまったら？
特に転換モードのときは急降下。
12秒間に500m降下

特に転換モードのときに「揚力」が不足する

オスプレイの飛行モード

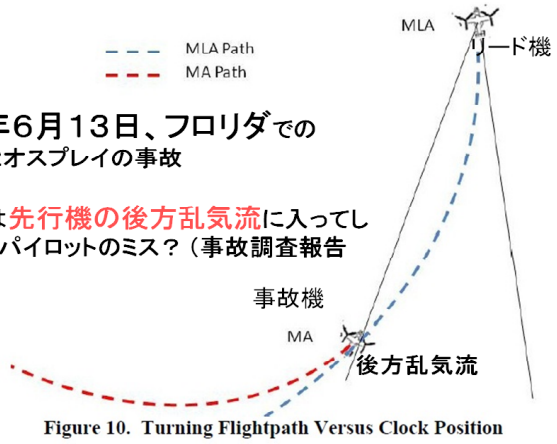
○垂直離着陸モード
ヘリコプターのような機能をもつ。
エンジンの角度がほぼ90度。

○転換モード
垂直離着陸モードから固定翼モードに転換する。
エンジンの角度は、２つのモードの中間。

○固定翼モード
・ハイスピード
・高高度
・長距離
・主な飛行形態は固定翼モード
エンジンの角度が０度

（沖縄海兵隊のオスプレイ配備に向けた資料より）

片方が乱気流に入った場合？
両側で空気の渦の構造が違う場合？
左右のバランスをとるのが難しい。
→構造的な問題

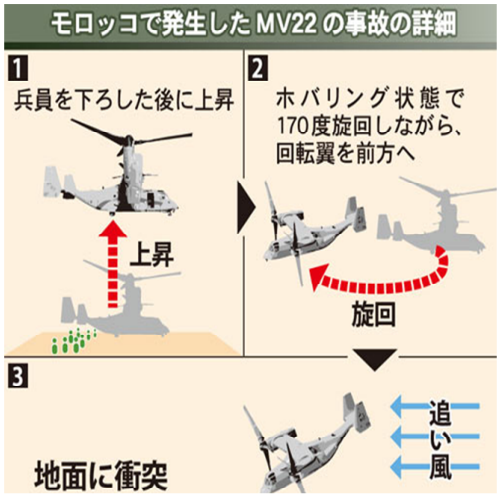


12年6月13日、フロリダでの
CV22オスプレイの事故

原因は先行機の後方乱気流に入ってしまったパイロットのミス？（事故調査報告書）

Figure 10. Turning Flightpath Versus Clock Position

（沖縄海兵隊のオスプレイ配備に向けた資料より）　エンジンの角度が０度



モード変換と風に弱い

河北新報 ONLINE NEWS

＜オスプレイ＞訓練で東北飛来　市民反発

2014年11月06日木曜日

＜２６０人集会＞

４日夜には県護憲平和センターと社民党県連などが、オスプレイ飛行反対集会を青葉区のハーネル仙台で開き、市民ら約２６０人が参加した。

講演で、ＮＰＯ法人ピースデポ（横浜市）の湯浅一郎代表は「オスプレイ参加は日米の軍事同盟強化が目的。そもそも構造上の欠陥があり、日本の航空法では飛行できない」と指摘。

県護憲平和センターなどによる４日夜の集会では、参加者がオスプレイ飛行の問題点を学んだ

社民党県連の岩渕義教代表は「みちのくＡＬＥＲＴは『防災』を名目にした軍事訓練。自衛隊と米軍の一体化を許してはならない」と話した。センターなどは５日、気仙沼市内でも同様の集会を開いた。